関西医大総合医療センターだより

With you

NO.33

TAKE FREE

特集

精神神経科リワークセンター

「大きな不安」から「小さな安心」に

Contents

P.02 新病院長ご挨拶

P.03 精神神経科リワークセンター
「大きな不安」から「小さな安心」に

P.10 就任挨拶

P.12 トピックス

関西医科大学総合医療センター
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

病院長

杉山 隆

ご挨拶

2026年4月1日付で病院長を拝命いたしました。日頃より当院の診療・運営にご理解とご支援を賜っております患者さんならびに地域の医療機関・関係施設の皆さまに、心から御礼申し上げます。

現在、医療を取り巻く環境は、物価高騰や医療従事者不足、医師の働き方改革への対応などにより大きな変化の中にあります。そのような状況においても、地域の皆さまが安心して医療を受けられる体制を守り続けることが、私たちの使命であると考えております。当院では、高度急性期医療を担うとともに、地域の医療機関や介護・福祉施設との連携を一層深め、それぞれの役割を生かした切れ目のない医療の提供に努めてまいります。

また、患者さん一人ひとりに寄り添い、患者さん中心の安全で質の高い医療を実践するとともに、信頼され、安心して受診していただける病院であり続けられるよう、職員一同力を合わせて取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

略歴

- 1988年3月 関西医科大学 卒業
- 1988年6月 三重大学医学部附属病院 研修医
- 1993年3月 三重大学大学院 医学研究科博士課程 修了
- 1994年7月 三重大学医学部 産科婦人科学講座 助手
- 1995年9月 米国ヴァンダービルト大学 医学部分子生理生物学 研究員
- 1998年9月 三重大学医学部 産科婦人科学講座 助手
- 2000年3月 大阪府立母子保健総合医療センター 産科 主任
- 2002年4月 三重大学医学部 産科婦人科学講座 助教授
- 2012年8月 東北大学医学部 産科婦人科学講座 准教授
- 2015年9月 愛媛大学医学部 産科婦人科学講座 教授
- 2021年4月 愛媛大学医学部附属病院 病院長、愛媛大学 副学長
- 2026年4月 関西医学大学総合医療センター 病院長

精神神経科 リワークセンター

Message from the Director

リワークセンター長挨拶

関西医科大学精神神経科では、2025年4月に、リワークセンターを開設し、うつ病リワーク協会に所属する医療リワーク施設として運用しております。

当科では、正確な診断に基づき、必要最小限かつ適切な薬物療法を行うとともに、治療抵抗性の症例に対しては、電気けいれん療法（ECT）や反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）などのニューロモデュレーション療法を含め、高度な専門性をもってうつ病診療に取り組んでおります。

一方で、うつ病の治療は、単に症状の寛解を目標とするものではありません。発症前と同程度の業務遂行能力や生産性を回復し、さらに再発を予防することが重要です。こうした「回復の最終段階」を支援し、円滑な職場復帰を目指すプログラムが、当科のリワークセンターです。

医療リワークは、復職後の再休職を減少させる効果が示されており、「うつ病診療ガイドライン2025」においても、その重要性が明記されています。

当センターでは、うつ病に特徴的な否定的思考や行動の悪循環に対処するための集団認知行動療法やメタ認知トレーニング、薬物に依存しない睡眠改善を目指す不眠症の認知行動療法、自己理解を深めるマインドフルネスなど、多面的かつ実践的なプログラムを提供しております。

復職に向けた一歩として、ぜひ当センターのご利用をご検討ください。

精神神経科診療部長
リワークセンター長
加藤 正樹

メンタルヘルス不調の方の復職を目指して

メンタルヘルス関連の休職者は近年増加傾向にあり、休職原因の最多となっています。
また、復職に至るまでの期間が長期化する傾向にあり、
復職しても再び休職してしまうケースも少なくありません。
当院では、メンタルヘルス不調によって休職した方が復職した後も働き続けられるよう、
包括的な支援を行う「リワークセンター」を2025年4月に開設しました。
全国的にも珍しい大学病院のリワーク施設として、診断から治療・リハビリに至るまで、
多職種によるサポートを行っています。

当院リワークセンターの特長 | 大学病院のリワーク施設

- 医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理師が連携してサポート
- 充実した心理教育プログラム
- 医師による教育プログラムを実施
- 少人数ならではの手厚いサポート体制

目標は「復職」ではなく、「働き続けること」

リワークセンターでは、再発予防効果のある自己分析などの様々なプログラムを設定しています。

多職種連携により、症状に合わせたプログラムを実施

週5日・1クール4カ月（最長2年）が基本。各専門資格をもつ個別担当スタッフとの面談にて、来所日数や参加プログラムを調整します。

リワークプログラムを実施した方は、非実施の方に比べ就労継続率が高い

就業は職場環境などで、日常生活以上のストレスがかかります。
生活リズムを改善するとともに、コミュニケーション方法やストレスへの対処法などの再発予防スキルを身につけます。

円滑な復職に向けて職場や主治医と情報を共有

①就業先と情報を共有し、復職後のギャップを小さくします。
②進捗状況、復職準備性評価、心理検査結果などをお伝えします。
③復職後の職務やリハビリ出勤※の有無などを確認します。

※休職中の従業員が復職前に慣らしとして試行的に出勤する制度

月間プログラム（例）

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1週	AM	オフィスワーク 創作活動	認知矯正療法（NEAR）	メタ認知トレーニング	認知行動療法（CBT）	スポーツ
	PM		グループ活動	オフィスワーク	認知矯正療法（NEAR）	オフィスワーク
第2週	AM	オフィスワーク 創作活動 / 自己分析	認知矯正療法（NEAR）	メタ認知トレーニング	認知行動療法（CBT）	スポーツ
	PM		グループ活動	オフィスワーク	認知矯正療法（NEAR）	オフィスワーク
第3週	AM	オフィスワーク 創作活動 / 自己分析	認知矯正療法（NEAR）	メタ認知トレーニング	認知行動療法（CBT）	土曜日 follow up
	PM		グループ活動	オフィスワーク	認知矯正療法（NEAR）	
第4週	AM	オフィスワーク 創作活動	認知矯正療法（NEAR）	メタ認知トレーニング	認知行動療法（CBT）	スポーツ
	PM		勉強会	オフィスワーク 準備性	認知矯正療法（NEAR）	オフィスワーク

- 初めは週3日、簡単なプログラムから
- 昼食は当院管理栄養士の監修

費用のめやす

	健康保険制度 3割負担	自立支援医療制度※ 1割負担
導入時 ｜ ショート1回 デイ2回	月額 25,000円	月額 8,400円
復職間近 ｜ ショート1回 デイ4回	月額 45,000円	月額 11,300円

- いずれもプログラムの進捗度合により変動があります。

※当院は大阪府の指定自立支援医療機関（精神通院医療）です。負担割合については所得に応じた変動があります。

「大きな不安」から「小さな安心」に

プログラム

01 心理教育

自分の考え方や行動の特徴に気づき、ストレスへの対処法や対人関係のスキルを学びながら、日常生活での対処力を高めていきます。

認知行動療法（CBT）

ストレスを感じた時の考え方や行動の特徴に気づき、問題への対処力を高めるための心理療法です。

認知矯正療法（NEAR）

パソコンを使ったゲーム形式の課題を通して記憶・判断・理解などの認知機能を鍛えます。さらに、言語セッションを通じて、認知機能を日常生活でどのように活かすかを考えていきます。

アサーショントレーニング

自分も相手も大切にしながら、自分の気持ちや考えを適切に伝える方法を学ぶトレーニングです。

うつ病のためのメタ認知トレーニング（D-MCT）

「自分の考え方や行動」を客観的に見つめ、整理する練習です。他者の考え方を知り、自身を振り返ることで、言動をコントロールする方法を学びます。

マインドフルネス

「今、この瞬間」の体験に意識を向ける練習を通して、ストレスや感情への気づきを深め、心を整えながら自己理解を深めていきます。

02 集団プログラム

他者との交流や活動を通して、コミュニケーション力や協調性を育み、心身の健康や社会性の向上を目指します。

グループ活動

他者との交流や共同作業を通して、コミュニケーション力や協調性を身につける活動です。

スポーツ

ダーツや卓球などの軽スポーツを通して、体力づくりや気分転換、コミュニケーションの機会を広げていきます。

03 個人プログラム

作業や日々の振り返りを通して、自己理解を深めながら、就労に向けたスキルや自己管理能力を身につけていきます。

オフィスワーク

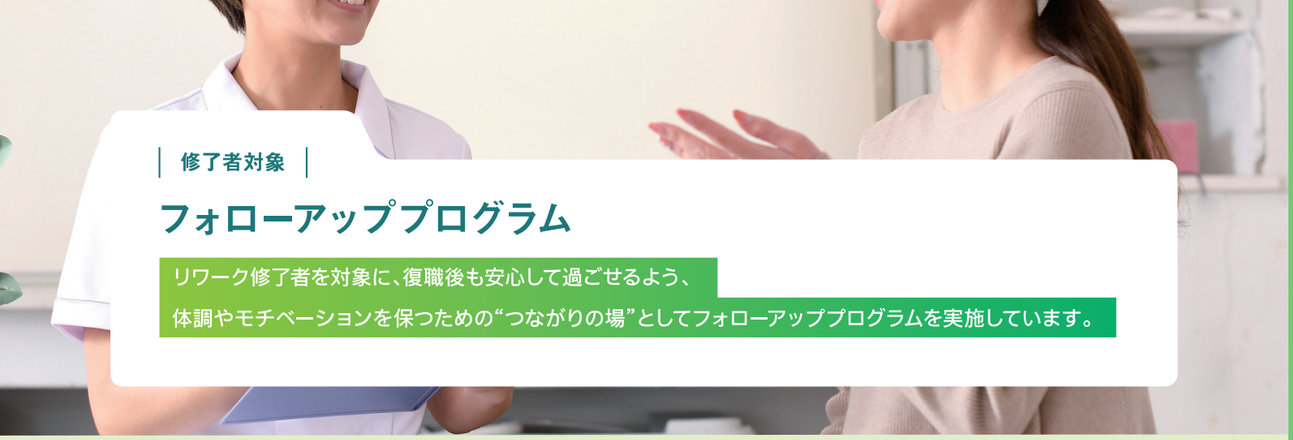
パソコンや事務作業に取り組みながら、集中力や作業スキルを身につけ、就労に向けた準備を行います。

日報作成

1日を振り返り、頭の中の情報や気持ちを文章化して整理します。スタッフからのコメントを通して、客観的な視点を取り入れながら自己理解を深めていきます。

自己分析

発症の経緯を振り返り、自分の特徴や不調のサインを理解することで、再発予防につなげていきます。



修了者対象

フォローアッププログラム

リワーク修了者を対象に、復職後も安心して過ごせるよう、
体調やモチベーションを保つための“つながりの場”としてフォローアッププログラムを実施しています。

利用者の声

認知行動療法

考え方を少し変えるだけで、行動しやすくなる。
行動することで気分を変えることができると知り、
少しずつ取り入れることで気分が良い日が増えた。
小さなことから積み上げていこうと思った。

NEAR

自分の苦手な作業がわかる。
普段の生活で無意識でやっていることを再認識できる。
ゲームを楽しみながら、
自分の認知機能を知れる良い機会となっている。

メタ認知

うつ病に起こる考え方の偏りを学びます。
自分の考え方の傾向を知ることや、実際は、
人それぞれの感じ方、物事の受け取り方が全く同じ
ものにはならないことを知ることができます。

メタ認知

自分を客観的に見る方法が
わかり、今までぐるぐる
悩んでいたことから
抜け出せた。

メタ認知

他の参加者の意見を聞く
ことで自分が理解できな
かったことを少し理解で
きるようになった。

定期的にリワークに通う

リワークに通うまで自由にしていた生活リズムが、
リワークに通うことで
仕事に行くリズムに近い生活が送れる。
通える日が増えていくごとに達成感も感じられる。

リワーク面談

復職という大きすぎる目標に対し、
復職までのステップを実現可能なものに、
面談を通してより具体化ができて
整理できたような気がします。

総合医療センターではたらく「ひと」

精神神経科リワークセンター

精神保健福祉士

■精神保健福祉士とは？

精神疾患や心の不調を抱える方が地域でその人らしく生活できるよう支援する国家資格の専門職です。介護を要する方のサポートをする介護福祉士と同様に、メンタルヘルスの課題をもつ方のサポートをするのが精神保健福祉士です。例えば当院のような医療機関では、医療と地域生活をつなぐ立場として、退院後や通院中の生活・就労・社会資源の利用などを支援します。医療機関だけでなく福祉・行政・教育・企業など多岐にわたる場で、メンタルヘルスの課題をもつ方の「生活全体」を支えています。

■なぜ精神保健福祉士に？

精神疾患を抱えるさまざまな患者さんと関わる中で、病状が落ち着いても生活や仕事でつまずいてしまう方が多いことを目の当たりにしてきました。治療だけでなく生活や就労も含む「その人の暮らし全体」を支える役割の重要性を感じるようになったのを機に、精神保健福祉士を目指しました。

■具体的にはどんな業務がありますか？

復職を目指す利用者への個別面談、集団プログラムの運営（午前・午後に1コマずつ）、関係機関との連絡調整などを、リワークセンターで担当しています。回復や復職のプロセスは個人差が大きく、思うように進まないこともあります。その中で、多職種で連携しながら最善の支援を模索し続けることに、難しさとやりがいを感じています。

■現在取り組んでいることや、今後の課題は？

研修や勉強会に参加したり、チームで相談したりしながら、よりよいプログラムになるよう試行錯誤を重ねています。今後も学びを深め、安心して参加していただける支援につなげていきたいと考えています。また、職能団体である日本精神保健福祉士協会の生涯研修制度などを活用しながら自己研鑽を続けています。

■利用者や患者さんに向けてメッセージを！

リワークセンターで復職を目指す方に共通するのは真面目な方、よく気を遣う方です。復職を目指す過程では、不安や迷いが生じるのは自然なことだと思います。リワークが、ご自身の考え方や働き方を整理し、再出発に向けた準備ができる場となるよう心がけています。それぞれの歩みに合わせながら、主体的に取り組む力を大切にし、一緒に考えていけたらと思います。

国内初ICU患者の退室判断を支援するAIプログラムを導入

関西医科大学医学部救急医学講座中森靖教授（総合医療センター救急医学科前部長）が、株式会社MeDiCUとの共同研究により開発した

退室・転棟支援プログラム と **症状詳記作成支援プログラム** の

正式導入が開始されました。

このプログラムは中森教授を始めとする本学のチームと、世界最大規模の救急・集中治療のデータベースを提供する株式会社MeDiCUとの共同研究により開発されたものです。当院での導入は国内初の事例で、両プログラムの活用により、高度な医療サービスの提供につながることが見込まれます。

正式導入に際して行われた記者会見では杉山隆病院長の挨拶に続き、共同研究者である中森教授による導入の背景説明などが行われました。

退室・転棟支援プログラム

過去の統計情報をもとにICU退室後48時間以内に容体が急変して再入室となる確率が高い患者さんを算出する、国内初のAIプログラム。医師のこれまでの臨床経験に依存することなく、ICUでの治療を継続するか退室するかの判断を早期に開始することができるようになることで高い精度でのリスクの予測につながり、死亡リスク低減が見込まれます。

症状詳記作成支援プログラム

診療報酬請求のために必要な書類で、症状の具体的内容や重症度、検査結果、治療経過などを記載します。このプログラムでは生体情報や電子カルテのデータをAIが解析し、症状詳記の草案を自動で生成します。このプログラムを活用することで、症状詳記の作成時間がこれまでの約4分の1におさえられ、医師の大幅な負担軽減につながります。

現場で稼働するプログラムの説明を行う
救急医学科齊藤福樹診療部長

MESSAGE

就任挨拶

血管外科診療部長
下肢救済センター長
深山 紀幸

2026年4月から血管外科診療部長・下肢救済センター長を拝命いたしました。当科は血管診療に特化した診療科であり、下肢閉塞性動脈疾患や大動脈瘤など幅広い領域の血管疾患に対応しています。治療についても薬物療法など内科的治療からカテーテル治療、外科的手術（胸部瘤を除く）まで一貫した対応が可能です。なかでも重症の血流低下により足に傷や壊死ができて治らなくなってしまった方に対する下肢バイパス手術やカテーテル治療に力を入れております。この領域は足処置、透析管理、糖尿病管理など各部門との綿密な連携をとりながら治療に当たっており、地域における最後の砦としての役割を果たしていきたい所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。

臨床検査医学科診療部長
利國 信行

2026年度より臨床検査医学科診療部長に就任いたしました。当科は、血液検査、生理検査という病院全体の診療を支える、いわば屋台骨のような存在です。私自身、肝疾患を専門としているため、日々の診療は血液検査や超音波検査によって成立していると言っても過言ではありません。今後は当科の責任者として、患者さんにベストの医療を提供すべく検査システムの点検、改善を常に行い、各科・各部門のご意見も取り入れながら当科としての責務を果たす所存です。また、人間ドックの拡充についても積極的に貢献していきたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

救急医学科診療部長
ゲノム解析センター長
齊藤 福樹

2026年4月から救急医学科診療部長・ゲノム解析センター長を拝命しました。救急車の搬送件数は増加の一途であり、まだまだすべての依頼に応需できているわけではありませんが、連携病院とも機能強化を図り、急病で困っている患者さんを1人でも受け入れられるよう努力してまいります。2028年には、現在建設中の西館にEmergency Medical センター外来を移設し、時間外救急診療の更なる充実を図る予定ですのでご期待ください。引き続き地域の救急医療の要として発展し責務を果たしてまいる覚悟であります。

ゲノム解析センターはリアルタイムPCR装置を用いて、免疫力の低下した方に感染症を引き起こし身体診察や画像だけでは判断のつかないウイルス等の同定を行っています。上記のような感染症は、早期診断介入が非常に重要であります。診断に苦慮するような場合は、ぜひ一度、我々にご相談ください。

神経難病センター長
近藤 誉之

このたび2026年3月をもちまして脳神経内科診療教授・診療部長を退職し、神経難病センター長として再任されました。これまでと同様に脳神経内科診療に軸足を置きながら、多発性硬化症や視神経脊髄炎をはじめとする神経免疫疾患だけでなく、幅ひろく神経難病を中心に診療・研究を継続してまいります。

神経難病は長期にわたる支援を要する疾患が多く、専門的な診療の積み重ねがそのまま患者さんの生活の質に直結します。これまで培ってきた神経免疫領域の知見を活かし、患者さんにとってより実質的な価値のある医療を提供できるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

血栓止血センター長
石井 一慶

今年度から血栓止血センターセンター長を拝命しました。血栓症できわめて重篤な血栓性血小板減少性紫斑病に関してはactivityの高い救命救急センターと連携しながら、血液腫瘍内科において診断、治療を行っています。迅速な診断、治療薬の進歩により救命率は非常に高くなっています。先天性の凝固異常も稀ですが、補充療法である血液製剤が年々充実しています。終生補充療法が必須であることから地域での連携が非常に重要です。当大学附属病院の専門医と連携しながらネットワークの確立を今春から計画しています。

副病院長
成子 隆彦

2026年4月1日付で副病院長を拝命いたしました成子隆彦と申します。これまで心臓血管病センター長として循環器診療に携わってまいりました。近年、循環器医療は大きく進歩し、虚血性心疾患に加え、不整脈に対するカテーテルアブレーションや弁膜症に対するカテーテル治療など、治療の選択肢は広がっております。また、超高齢社会の進展に伴い、複数の疾患を併せ持つ患者さんが増える中、当院の役割はますます重要になると感じております。今後は診療科の垣根を越え、チーム一丸となって患者さん中心の医療を大切にしながら、質の高い医療の提供に努めてまいります。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

副病院長
福長 洋介

2026年4月に副病院長を拝命いたしました。2年前に当センターの下部消化管外科部長に着任以降、主に大腸がんを中心とした診療に携わってきました。その間に少しでも地域の患者さん、そして先生方から信頼を得られることを目標に、そして地域の社会福祉に貢献できるようやってきました。この度病院執行部の一員とさせていただいたうえでは、当院をさらに高質高度な医療を提供できる病院に進化させるとともに、最も大切な医療の根幹である安心安全な医療を推し進めたいと思います。地域に根差して、また大学病院としての高度な機能を果たすべく、みなさまと地域医療機関の先生方のご協力ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

副病院長
島谷 昌明

2026年4月から副病院長を拝命いたしました島谷昌明と申します。私は消化器肝臓内科診療部長、内視鏡センター長、胆膵疾患センター長等を併任し、特に胆膵疾患の内視鏡治療を専門としてまいりました。当院は地域医療の中核を担う高度医療機関として、質の高い医療の提供と安全管理、さらには次世代を担う人材育成が求められております。これまで消化器内視鏡診療を中心に臨床・教育・研究に携わってまいりましたが、今後はより広い視点で病院全体の発展に関わっていく立場となります。これまでの経験を基盤に、診療体制のさらなる充実と組織運営の円滑化に努め、患者さん中心の医療の実現に尽力してまいる所存であります。また、若手医師の確保と育成は医療発展の基盤であり、教育体制の充実と働きやすい環境整備にも積極的に取り組んでまいりたいと思っております。微力ではございますが、皆様のご指導・ご支援を賜りながら、より良い医療を実現していければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
甲状腺外科センター長
楠 威志

2026年4月1日付で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座理事長特命教授、診療部長、甲状腺外科センター長を拝命し、総合医療センターに勤務することになりました。診療面では、甲状腺専門病院である別府野口病院で研鑽を積み、以降平均年間20ー30例甲状腺手術をこなしております。また、喉頭疾患や音声訓練にも従事し、特に難治とされている心因性発声障害については、ほぼ全例、3カ月以内と早期に治癒させています。そのほかの頭頸部腫瘍、耳疾患、鼻疾患にも携わり1例1例大事に診療しています。そこで、新しい知見を見出し、教訓を得れば論文としてまとめ、たえず反省し、新しい治療戦略を模索しています。今後もこれまで臨床および研究で得た知識と経験を基に、若手医師を育成し、彼らと共に地域医療に還元していく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経内科診療部長
中村 正孝

2026年4月1日付で、脳神経内科診療部長を拝命し、責任の重さに身の引き締まる思いです。脳神経内科はかつて「治らない病気を診る分野」と言われてきましたが、近年、遺伝学の進歩により病態解明が進み、遺伝子治療や分子標的療法、さらに高齢化を背景とした認知症に対する新規治療薬の登場により、大きく変わりつつあります。こうした変革の中で、最新の知見を迅速に診療へ取り入れ、質の高い医療を提供する体制を築いてまいります。これまでの神経病理学的研究に基づく神経変性疾患診療の経験を生かし、早期診断・早期介入とQOL向上を重視し、地域に信頼される診療科として貢献してまいります。

新マンモグラフィ

2026年1月から、放射線部に新しいマンモグラフィ装置が導入されました。
機器上部の撮影装置が移動しながら連続的に撮影することで、
注目したい場所がくっきり見える視認性の高いトモシンセシス機能が
備わっており、従来よりも精度の高い診断が可能になりました。
また、乳房圧迫による痛みを軽減できる“なごむね”機能も搭載しています。

精神科訪問看護を開始

精神疾患のある方もしくは心のケアが必要な方に対して精神科訪問看護を開始しました。
看護師がご自宅に訪問し、病状の管理や日常生活の精神的サポートなどの支援を行います。
安心できる環境で看護を提供することで症状の安定と再発防止を図ります。

対象
- 精神疾患と診断された方
- 精神科・心療内科に通院中の方

主なサービス
- 健康状態の観察
- 服薬管理と指導
- 日常生活の支援
- ご家族への支援
- 関連機関との連携

利用までの流れ
- 相談｜相談員または主治医にご相談ください。
- 医師の指示｜主治医に精神科訪問看護の利用希望をお伝えください。
- 契約・訪問開始｜訪問日や時間、頻度などの正式契約後、訪問看護を開始します。

お問い合わせ　関医訪問看護ステーション・滝井　TEL：06-4397-7640

患者さんに寄り添う看護のスペシャリスト

当院には専門看護師（CNS）・認定看護師（CN）・特定行為研修修了看護師など様々な資格を持つ看護師が所属しています。
ここではそれぞれの専門資格と患者さんとの関わりを紹介します。

精神看護専門看護師

精神看護とは、精神的な不調や病気を抱える人の不安や苦しさに寄り添い、こころの健康や回復を支える看護です。精神看護専門看護師は、「地域生活の中でその人らしく生活ができる」ことを大切に、患者さんの苦しみやつらさに向き合い、精神症状や日常生活機能が改善されるよう支援しています。また、一般病棟に入院されている患者さんが不安や不眠、意欲低下、せん妄症状などの精神症状を伴うこともあります。医師や多職種のスタッフと連携し、身体と心の両面から支え、安心して治療に向き合えるよう入院生活の質の向上と円滑な回復を支援しています。

〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号
TEL：06-6992-1001（代）
URL：https://hp.kmu.ac.jp/takii/

みんなの文字®
With you はUCDA認証フォント「みんなの文字」を使用したユニーバーサルデザインに配慮された冊子です。